

令和7年度 小樽市立朝里小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

- ◆ 児童の実態を下記の観点から数値をもとに文章で記載。
 - ① 2 学期末チャレンジテストにおいて、全道平均以上の学年が半分程度。
 - ② 全国学力・学習状況調査結果は、全国平均と比較して、国語は4.4 ポイント、算数は9 ポイント低い。
 - ③ 標準学力調査は、3 年国語 15.8、算数 10、5 年国語 5.5、算数 8.1 と全国平均を大きく下回っている。
 - ④ 単元テストは、概ね平均 75 点程度。確認テストは学年によってばらつきが大きい。
 - ⑤ 全国学力・学習状況調査結果（児童質問紙）では、ICT 利用率は高いが、効果的な活用が身に付いていなかった。
 - ⑥ 児童アンケート「家庭学習に取り組む時間」は、すべての学年において目標時間を達成できていない。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1 年	・チャレンジテスト全道平均以上
2 年	・チャレンジテスト全道平均以上
3 年	・チャレンジテスト全道平均以上 ・標準学力調査全国平均以上
4 年	・チャレンジテスト全道平均以上
5 年	・チャレンジテスト全道平均以上 ・標準学力調査全国平均
6 年	・チャレンジテスト全道平均以上 ・全国学力・学習状況調査全国平均以上

<算数科>

学年	定着目標
1 年	・チャレンジテスト全道平均以上
2 年	・チャレンジテスト全道平均以上
3 年	・チャレンジテスト全道平均以上 ・標準学力調査全国平均以上
4 年	・チャレンジテスト全道平均以上
5 年	・チャレンジテスト全道平均以上 ・標準学力調査全国平均以上
6 年	・チャレンジテスト全道平均以上 ・全国学力・学習状況調査全国平均以上

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1 年	・家庭学習に毎日取り組む3.2 以上
2 年	・家庭学習に毎日取り組む3.2 以上
3 年	・家庭学習に毎日取り組む3.2 以上
4 年	・家庭学習に毎日取り組む3.2 以上
5 年	・家庭学習に毎日取り組む3.2 以上
6 年	・家庭学習に毎日取り組む3.2 以上

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①AI ドリルの活用
- ②計画的な家庭学習の実施
- ③朝学習の徹底（読み書き・計算・読書）

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①令和の日本型教育の共通理解
- ②学びのクラウド化をベースにした、選択の場面設定を意識した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進
- ③客観的なデータの分析に基づいた、基礎基本の定着を図る。

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①個別最適な計画的な家庭学習の取組の推進
- ②保護者と連携したスクリーンタイムの改善

（4）その他

- ①学校図書館利用者数増加に向けた取組

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 7 年 4 月	・学力向上プランとロードマップによる共通理解 ・家庭学習、週末課題、朝学習の取組の共通理解と実施（通年） ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ○R 7 全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第3 学年・第5 学年）
5 月	・全国学力・学習状況調査の自己採点、分析を基にした授業改善（研修との協力） ○標準学力調査結果分析
6 月	・標準学力調査結果の自己採点を、分析を基にした授業改善（研修との協力）
7 月	・チャレンジテスト（1 学期末問題）の実施 ・児童アンケート、学校評価の実施と分析 ・各種分析結果を基にした、家庭学習・週末課題・朝学習の取組の改善
8 月	・チャレンジテスト（1 学期サポート問題）の実施 ○R 7 全国学力・学習状況調査結果分析
9 月	・各単元テストの集計と分析 ・各種分析結果を基にした、家庭学習・週末課題・朝学習の取組の改善
1 0 月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
1 1 月	・公開研究会の実施⇒研究についての評価と改善
1 2 月	・チャレンジテスト（2 学期末問題）の実施 ・児童アンケート、学校評価の実施と分析 ・各種分析結果を基にした、家庭学習・週末課題・朝学習の取組の改善
R 8 年 1 月 2 月	・チャレンジテスト（2 学期サポート問題）の実施 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・単元テストの集計と分析
3 月	○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

（1）全国学力・学習状況長、標準学力調査、チャレンジテスト

- ①質問紙の分析
- ②全国・全道平均との比較

（2）チャレンジテスト、単元テスト、AI ドリルの集計と分析

- ①定着率の把握と結果を基にした朝学習、家庭学習、週末課題の改善
- ②チャレンジテスト全道平均との比較、単元テスト全国平均との比較、AT ドリル実施率 80%

（3）児童、職員アンケート、スクリーンタイムアンケート

- ①7 月、12 月の実施し、学習指導状況を把握
- ②生活習慣、学習習慣の実態把握と改善
- ③スクリーンタイムの把握、改善に向けた家庭への実態周知